

1 研究主題

身の回りの不思議が「調べてみたい」に変わる予想場面の工夫

2 研究内容

児童が主体的に問題作りに取り組む単元の導入方法について研究する。

3 研究年間計画

| 月日 | 内容 | 授業実践・活動等 |
|----------|-------|--|
| 5月11日(水) | 部会 | 年間計画、研究主題、授業者等の決定 |
| 6月8日(水) | 部会 | 指導案検討 |
| 7月6日(水) | 研究授業① | 3年「風やゴムで動かそう」 授業者：細江 剛史 主任教諭(第十小学校) 講師：村山学園 志村 雅巳 統括副校長 |
| 9月7日(水) | 研究授業② | 3年「音を出して調べよう」 授業者：町田 拓巳 教諭(第七小学校) 講師：東京都教職員研修センター 教授 小林 政雄 先生 |
| 10月5日(水) | 施設見学 | 国立感染症研究所村山庁舎(BLS4施設)見学 |
| 11月9日(水) | 研究授業③ | 5年「物のとけ方」 授業者：井口 桜 教諭(村山学園) 講師：東京都教職員研修センター 統括指導主事 先崎 達彦 先生 |
| 12月7日(水) | 部会 | 研究の振り返りとまとめ |
| 1月18日(水) | 部会 | 次年度の研究に向けて |

※東京都小学生科学展市内代表作品の選考委員を理科部より選出
(担当校長1名及び教員4名)

4 次年度に向けて

単元の導入において、どのように教材や活動の工夫を行えば、児童に興味・関心をもたせることができるのかについて研究を進めた。

児童の身の回りにある道具などを教材として提示し、活用することで活動に主体的に取り組み、自然事象への気付きを促すことができた。自然事象に対する気付きを基にして、児童画主体となり、どのように問題を設定するのかについて、今後研究を進めていきたい。